

## 第6学年 国語科学習指導案

場 所: 6年生教室

1 単元名 自分の感じたことを、朗読で表現しよう

教材名 「やまなし」 宮沢賢治 「イーハトーヴの夢」 畑山博

2 指導の立場

(1) 単元で付けたい力

本単元の学習を通して付けたい力は、以下の通りである。

**自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。読ア**

朗読は、作品全体を読んで自分なりに感じたことを聞き手に分かってもらえるように表現することである。学習指導要領解説では、「音読が文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して、朗読は、児童一人一人が自分なりに解釈したことや、感心や感動したことなどを文章全体に対する思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝えることに重点がある。」と書かれている。自分なりに解釈し、文章全体に対する思いや考えをまとめるには、まず文章の優れた表現から想像を広げ、作品世界の魅力を感じることが必要である。その上で、自分なりの解釈をもち、どのように表現するとよいかを考えながら朗読していく。どのように表現すれば自分の感じた物語の世界が伝わるかを、解釈と表現を繰り返しながら行うことで、自分の思いが伝わる朗読ができる力をつけたい。

(2) 単元・題材について

「やまなし」は、二枚の幻灯「五月」「十二月」で構成され、対比した世界がえがかれている。また、比喻表現や擬態語、擬声語、造語などの美しく、不思議な言葉によって、色やにおいなど谷川の様子が豊かに表現され、読み手に想像を膨らませる。この心を魅かれる優れた叙述から想像を広げ、自分の感じたことを朗読することで作品の世界を味わうことができる教材だと考えた。

(3) 言語活動とその特徴

指導事項を身に付けるために、単元を貫く課題を「『やまなし』にえがかれた世界を自分なりにとらえ、朗読ライブで自分たちの想像した世界が伝わるように工夫して朗読しよう」と設定し、単元の出口に朗読ライブを位置付けた。朗読ライブで自分たちのとらえた作品の世界を発表したいという目的をもって毎時間の学習を進める。また、給食の時に録音を流すことにより、全校に聞いてもらう機会をもうけ、学習意欲につなげたい。

朗読ライブでは、グループごとに6年生の前で「やまなし」を朗読発表する。ライブという言葉には、録音や録画ではなく、生中継、生放送の生の発表を強調する意味が込められている。読み手と聞き手の両方で作り出すのが朗読ライブである。聞き手に伝わるように読み手が聞き手を意識して朗読することと、聞き手が読み手の表現から想像して聞くことの両方の意識を高めることをねらったものである。

グループ発表を選択した理由は次の2点である。1つ目に、一人一人の思いや感じたことを出し合い、グループで考えをまとめることで、自分の考えを深めることができる。2つ目に、表現の仕方について互いに聞き合い、意見を出し合ってよりよいものにしていくことができる。仲間と共に1つの作品を作っていく過程が、自分なりの解釈をもって朗読することにつながり、今後の読書で自分なりの解釈をしながら作品を楽しむことにもつながっていくと考えた。

### 【読むこと領域の単元と言語活動の計画】

|               |                                                                                        |                              |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1学期<br>カレーライス | 【単元のねらい】<br>登場人物の心情を表している表現や題名が象徴している意味を読み取り、登場人物の相互関係や心情の変化をとらえ、自分の感想をまとめることができる。(読エ) | 【言語活動計画】<br>重松清作品の<br>ポップ作り  |
| 2学期<br>やまなし   | 【単元のねらい】<br>物語にえがかれた世界を自分なりにとらえ、どのように表現すれば伝わるかを考え、朗読することができる。(読ア)                      | 【言語活動計画】<br>「やまなし」の<br>朗読ライブ |



|                          |                                                                                    |                                   |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| <b>3学期</b><br><b>海の命</b> | <b>【単元のねらい】</b><br>登場人物相互の関係をとらえ、人物の生き方や考え方についての考えを交流し、自分の考えを広めたり深めたりすることができる。(読オ) | <b>【言語活動計画】</b><br>命シリーズを読み比べる読書会 |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|

### 3 研究にかかわって

研究内容1 教材と向き合い、既習事項と比較し、自分の考えをもつことができたか。

(1) 導入時に児童の意欲を引き出し、単元・単位時間の見通しをもたせるための工夫(教材との対話)

単元の導入では、朗読の仕方の違う2人の朗読を聞き比べる。朗読を聞いて感じたことを交流することで、読み方の違いが朗読の工夫の違いだけでなく、読み手の解釈の違いであることに気付けるようにする。その上で、自分なりに作品をとらえ、感じたことが伝わるような自分たちだけの朗読を作り上げ、朗読ライブで発表するという目的意識をもたせ、学習意欲につなげたい。朗読ライブで聞き手に伝わる朗読をするために、「やまなし」の心を魅かれる表現に着目し、どんな情景がえがかれているかを想像していく。そこで、一人一人が「やまなし」を自分なりにとらえ、さらにグループで思いをまとめて朗読を作り上げていけるような学習内容を考え、学習計画を立てる。

本時の導入では、一人の児童の発表を例に挙げて前時を振り返る。「五月」をどのようにとらえたか、そしてどのように読むかという作品の解釈と朗読の工夫の2点をおさえることで、本時のゴールの見通しを具体的にもたせるようにする。

(2) 個の考えをもたせるための課題設定や、考えをつくるための視点を与える工夫(自分との対話)

これまでの身近な主人公が登場する作品と違い、児童は「やまなし」は何を表現しているのかよく分からないという印象をもつと考えられる。そこで、自分なりに作品をとらえることができるための具体的な手立てとして、次の4つの観点を提示する。「水や光の様子」「かにの親子の会話や様子」「色」「上から来たもの」である。この観点が書かれているところから、擬態語や擬音語、比喩などの心魅かれる表現を見つけて想像をふくらませる。また、「五月」と「十二月」を対比しながら考えることで、相違点が明らかになり、作品の世界を想像しやすくなると考える。

研究内容2 仲間と共に考えを練り合い、自分の考えを高めることができたか。

(1) 展開時の交流において自分の考えを広げたり、深めたりできるような形態、交流の工夫(仲間との対話)

単元の出口である朗読ライブに向けて、グループ交流を核として位置付けていく。グループで朗読を作り上げる目的で交流し、一人一人の考えを出し合いながら自分たちの解釈や表現の仕方を見つけていく。仲間との交流を通して自分の考えを深めていくような話し合いにしていきたい。

そのために、まず一人読みで自分の選んだ観点から心魅かれる表現を選び、想像したことをどのように朗読したいかを考えていく。次にグループで想像したことを交流して、「十二月」の様子をとらえる。全体交流で「十二月」の世界について「五月」と対比しながらえがかれた世界をまとめていくようにする。グループ交流と全体交流で話し合う視点を変えることで、想像を広げ朗読にいかしていけるようにしたい。

研究内容3 学習内容を確実に理解し、自分の考えを深めることができたか。

(1) 終末時に、自分の考えの変容を振り返り、学びを実感するためのまとめ方の工夫(自分との対話)

本単元は、朗読で表現することを目的としている。そこで、終末の自分との対話では、まとめとしてノートに書くのではなく、朗読の台本に自分の読みや音読の工夫を書き込むことにする。仲間との対話によって深まったり広がったりした読みを加えたり、修正したりしていくことで、学習内容の理解を実感できるようにしたい。また、朗読の仕方を仲間と交流したり、録音して聞いたりすることで、自分の朗読の仕方がどう伝わっているかを認識し、さらに工夫していけるようにしたい。

# 4 単元指導計画（全8時間）

| 次 | 時 | ねらい                                                   | 学習活動                                                                                                                                                                                     | 評価規準                                                                   |
|---|---|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1 | 作品の解釈によって朗読の表現の仕方が違うことに気づき、朗読ライブへの意欲と学習の見通しをもつことができる。 | <div>朗読を聞いて感じたことを交流し、学習計画を立てよう。</div> <div>①朗読を聞き比べ、感想を交流する。</div> <div>②朗読発表会のイメージをもち、学習計画を立てる。</div> <div>単元を貫く課題<br/>「やまなし」にえがかれた世界を自分なりにとらえ、朗読ライブで自分たちの想像した世界が伝わるように工夫して朗読しよう。</div> | 朗読の仕方は解釈によって違ってくことに気づき「やまなし」を読んで自分が感じたことを朗読ライブで表現するという意欲と学習の見通しをもっている。 |
|   | 2 | 言葉に着目しながら「やまなし」を読み、感想をもつことができる。                       | <div>①前時の学習を振り返る。</div> <div>作品を読んで思ったことや心に残る表現を交流しよう。</div> <div>②「やまなし」を音読し、分からない語句を調べる。</div> <div>③感想を書いて、交流する。</div>                                                                | 作品から想像した様子や感じたこと、心に残った表現などについて感想をまとめている。                               |
|   | 3 | 宮沢賢治の考え方や生き方について知り、感想をもつことができる。                       | <div>①前時の学習を振り返る。</div> <div>宮沢賢治の生き方や考え方を知ろう。</div> <div>②「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の人物像を考える。</div> <div>③賢治の考え方、生き方について感想を書く。</div>                                                              | 賢治の行動や言葉から生き方や考え方を知り、感想をもっている。                                         |
| 2 | 4 | 出来事や優れた表現に着目しながら「五月」の幻灯を読んで谷川の情景を想像し、朗読することができる。      | <div>①前時の学習を振り返る。</div> <div>「五月」の谷川の情景を想像し、思いが伝わる朗読にしよう。</div> <div>②読みの観点から一人読みをする。</div> <div>③全体交流をする。</div> <div>④朗読の仕方を考え、声に出してみる。</div>                                           | 心に残った表現から「五月」の谷川の情景を想像し、想像したことが伝わるように朗読している。                           |
|   | 5 | 本 時                                                   |                                                                                                                                                                                          |                                                                        |
|   | 6 | 二枚の幻灯を比べ、題名について考えることで、自分なりの考えをもつことができる。               | <div>①前時までの学習を振り返る。</div> <div>「五月」と「十二月」を比べ、思いが伝わる朗読にしよう。</div> <div>②「五月」と「十二月」を対比し、感じたことを交流する。</div> <div>③場面の違いが分かるように朗読の仕方をさらに工夫する。</div>                                           | 「五月」と「十二月」を対比したり、題名について考えたりして作品の世界を自分なりにとらえている。                        |
| 3 | 7 | 感じたことが伝わるように表現の仕方を考え、朗読することができる。                      | <div>①前時までの学習を振り返る。</div> <div>自分たちの思いが伝わるように朗読の練習をしよう。</div> <div>②分担をし、朗読の工夫を考えて台本に書く。</div> <div>③朗読の練習をする。</div>                                                                     | 作品を読んで感じたことが聞き手に伝わるように表現の仕方を考えて朗読している。                                 |
|   | 8 | 自分なりに想像したことや感じたことを朗読で表現することができる。                      | <div>①朗読ライブの流れを確認する。</div> <div>自分たちの思いが伝わる朗読ライブにしよう。</div> <div>②グループごとに朗読発表をし、感想を交流する。</div> <div>③学習の感想をまとめる。</div>                                                                   | 作品に対する自分の思いが伝わるように工夫して朗読している。                                          |

## 5 本時の展開

### (1) 本時のねらい

色や明るさ温度などの谷川の様子や「ぼかぼか」などのやまなしの様子が分かる表現に着目して「十二月」の明るく美しい谷川の様子とかにの親子の楽しそうな様子をとらえ、その思いが伝わるように朗読をすることができる。

### (2) 本時の展開 ( 5 / 8 )

|    | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 対話を引き出す手立て                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | <p>①前時の学習を振り返る。(教材との対話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「五月」は明るく美しい谷川の様子だが、かわせみが魚を捕まえる怖い場面でもある。かわせみが勢いよく恐ろしい感じで飛び込んできたことが伝わるように、「青光」「ぎらぎら」「鉄砲だま」などの言葉を、速く低い声で朗読したいと思います。</li> </ul> <p>②本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 「五月」の谷川と比べながら「十二月」の谷川の情景を想像し、思いが伝わる朗読にしよう。</p> </div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>○前時学習した「五月」の作品解釈と朗読の工夫を振り返ることで、本時のゴールのイメージをもつことができるようにする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 展開 | <p>③「十二月」の場面を一人読みする。(自分との対話)</p> <p>【水や光の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五月とは反対で「冷たい」「月光」「青白い火」「しんと」から夜の冷たく音がない寂しい谷川の様子を想像した。だから、落ち着いてゆっくりと声の高さを変えずに読みたい。</li> </ul> <p>【かにの親子の会話や様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「・・・だろう」「おいしそうだね」「おいで」のところは、やまなしのいいにおいを吸ってうれしそうな親子の気持ちが伝わってくる。やまなしを楽しみにしている感じで話しかけるように読みたい。</li> </ul> <p>④グループ交流で「十二月」の世界をまとめる。(仲間との対話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白、水晶(透明)、金雲母(褐色)で、「五月」とは様子がすっかり変わったけれど、きらきらして水も石もきれいな様子が分かる。</li> <li>・「五月」は日光が降ってきて美しい様子だったけれど、「十二月」も「ラムネのびんの月光」などの言葉から美しい様子だと分かる。</li> <li>・「五月」はかわせみが登場し、兄弟が恐怖を感じて震えていたけれど、「十二月」はやまなしが登場して親子がうれしそうである。会話の部分をうれしそうな気持ちが伝わるように読みたい。</li> </ul> | <p>○自分との対話ができるように、水や光の様子、かにの会話や様子、色、上から来たものの4つ観点から考えるようにする。</p> <p>○五月と対比できるように「色、明るさ、時間、温度、形、音、速さ」を提示する。</p>                                                                                                                                                                                                      |
| 終末 | <p>⑤全体交流で「五月」と対比して「十二月」をまとめ、思いが伝わる朗読の仕方を考える。(仲間との対話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「トブン」を温かいものが落ちてきたように優しく明るい声で読む。</li> <li>・「きらきらっと・・・」はきれいに光る様子が伝わるように言葉をはっきりと言いたい。</li> <li>・「おどるようにして・・・」はかにの親子が楽しそうに追いかける様子が伝わるように明るい声で、読点で区切りながら読む。</li> </ul> <p>⑥グループで「十二月」の場面をまとめ、どのように朗読したいかを考えて朗読する。(自分との対話)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「十二月」は、やまなしによってかにの親子が幸せな気持ちになる場面です。やまなしのいいにおいでいっぱい谷川を、かにの親子が楽しそうにやまなしを追いかけている様子が伝わるように、「ぼかぼか」や「おどるようにして～」のところを明るい声で、楽しそうな感じでゆっくり読みたいです。</p> </div>                                                                                                                                    | <p>○グループ交流では、「十二月」の世界をまとめる話し合いをすることで、一人一人の考えを引き出せるようにする。</p> <p>○全体交流では、想像した「十二月」の様子が伝わるように表現の工夫をみんなで考える話し合いをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価規準<br/>色や明るさ温度などの谷川の様子や「ぼかぼか」などのやまなしの様子が分かる表現に着目して「十二月」の明るく美しい谷川の様子とかにの親子の楽しそうな様子をとらえ、その思いが伝わるように朗読をしている。</p> </div> |